

■處女の顔

帝キネ芦屋現代映畫

原作者 龜井清一氏
脚色並監督者 松本英一氏
撮影者 太田彌吉氏

主要役割

自動車運転手 中田六吉
富豪石川九雄
活版職工 三次
三次の母 おせつ
喫茶店 グァーシンの女給
女將 お兼
別荘番爺 高島幸郎氏
別荘番爺 高島幸郎氏
解説 — わが戀わが太刀 — について 松本英一氏
氏が監督製作した現代劇である。
略筋 — 紅燈の下 脂粉の香をふ中田は喫茶店
グァーシンの入居つてゐた。彼は女給お愛に遣
瀨ない想ひを寄せてゐたが自動車運転手として
の収入は到底彼女の虚榮を満足させる事は出来

なかつた。同じ様に出入する石川が買ひ與へる
高價な品にはまだ世馴れぬお愛の心を辟かすに
充分であつた。中田は愛する女と石川との甘い
囁きを背に聞きながらハンドルの握らねばなら
ない悲運に胸も張り裂ける思ひであつた。遂に或
夜石川の別荘で嫉妬に燃えた石川との醜い争闘
は起つた。そして愛子は重傷を負ひ、幾日かの
後彼女が退院をした。彼女には最早昔日の美し
い面影はなく戀ひ慕つてゐた男達もあまりに醜
い容貌に言葉もなく彼女から去つて行つた。斯
くて残るものは哀れな處女の鳥咽のみ悲しく續
いた。

